

観月祭 大土地神楽奉納

平成二十五年、二十七年と好評を博しました島根県の伝統芸能「大土地神楽」が、本年も高瀬神社で奉納されます。

日時 九月三十日(土)
午後五時から

観月祭
午後六時から

大土地神楽奉納

場所 高瀬神社御本殿
名称 大土地神楽

保持者 (国指定重要無形民俗文化財)
大土地神楽保存会神楽方

所在地 島根県出雲市大社町杵築西

会長 桐山和弘
会員数 三十二名

発足 約三百年前
概要 大土地神楽は、古くから大土地荒神社の神主によって

舞われていましたが、寛政十年(一七九八年)の「袴家順番帳」等の記録によると、宝暦年間



(一七六〇年前後)には既に素人神楽が舞われ、その頃から子どもも舞を奉納していることが確認でき、三百年以上途絶えることなく民衆に



よって受け継がれています。平成十七年二月には国の「重要無形民俗文化財」に指定されています。

その舞い振りや奏楽は、毎年十月の大土地荒神社例祭で、昔ながらの形で受け継がれており、出雲大社の門前町として、盛んだった芝居興行による影響もあってか、とかく観衆を意識し、楽しませる所作・演出が随所に見受けられます。また能舞の要素が多分に含まれた舞いも残っており、腰に「まくら」を背負った上に衣装を着けるといった、独特な容姿となっています。

現在の活動としては、大土地荒神社例祭はもとより、出雲大社例祭への奉納神楽、県内外での公演もしています。平成四年にアメリカ・ポートルランドやエレンズバーグ、平成五年には、フランスの「パリ日本文化祭」やイギリス・ロンドンで



の公演といった好機に恵まれ、国外でも神楽を披露することが出来ました。また、国譲り神話の舞台で「稲佐の浜夕刻篝火舞」を自主開催する等、神楽の素晴らしさを一人でも多くの方に知っていただくよう公演活動も行なっております。

